

レスポンスブル・ケアの推進

担当役員メッセージ

日本化薬グループは製造工程だけではなく、原材料の調達から、生産、流通、使用、廃棄に至るまでの製品ライフサイクル全体で環境・安全・品質に配慮し、最良の製品・技術・サービスを社会に提供しています。

事業活動の基盤は「安全と品質」です。当社は従業員一人ひとりの安全と健康を最優先に、事故や災害の未然防止に取り組んでいます。従業員の教育訓練を計画的に実施するとともに、日々の作業にかかわる潜在的な危険を予知し、先手の対策を講じることで作業の安全を確保しています。また、本社と工場が一体となった品質管理システムを構築しました。顧客苦情や工程異常の未然防止ならびに品質改善活動を一層強化します。

2022年3月には、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言への賛同を表明しました。気候変動に関連するリスクを適切に把握・分析すると同時に、機会として経営戦略に組み込み、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。TCFDのフレームワークに基づき、すべてのステークホルダーのみなさまと良好なコミュニケーションがとれるよう気候変動関連情報を開示し、対話を進めてまいります。

常務執行役員
生産技術本部長
伊澤 孝夫



環境・健康・安全と品質に関する宣言

日本化薬グループは、KAYAKU spiritとレスポンスブル・ケア[※]精神のもと、環境保全、安全衛生の確保および品質保証の維持・向上に努めるため、「環境・健康・安全と品質に関する宣言」を制定し、グループ全体で活動を推進しています。

環境・健康・安全と品質に関する宣言

1995年11月7日 制定

2017年5月22日 改定

私たち日本化薬グループは、KAYAKU spirit「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」に基づき、「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える」持続可能な社会の実現に貢献する企業として活動します。

◆ 基本方針

1. 製品の研究開発から生産、流通、販売、リサイクル、廃棄に至るまでのライフサイクル全体に渡り、環境・健康・安全の維持と改善に努めます
2. 廃棄物の削減と適正処理、省資源、省エネルギーおよび地球温暖化対策に役立つ技術の導入と開発を推進し、環境保全に努めます
3. 製品の安全な使用と取り扱いおよび環境の保全に必要な情報を取引先に積極的に提供します
4. 製品はもとより業務プロセスの品質を高め顧客満足度の向上を図ります
5. 教育訓練を通して従業員の見識と能力を高め、無公害、無災害、無事故および品質の向上を達成します
6. 事業活動について正しい理解が得られるよう情報を開示し、市民の方々や行政当局との対話に努めます

2019年6月25日

日本化薬株式会社 代表取締役社長

涌元厚光

※ レスポンスブル・ケア：Responsible Care（化学物質を製造または扱う企業が化学物質の開発や生産、販売、消費から廃棄に至るまでのすべてのプロセスで自ら積極的に環境・安全・健康面に配慮した対策を行う活動、1985年にカナダで誕生した後世界に拡がり現在では50カ国以上で実施）

日本化薬グループのレスポンスブル・ケア

日本化薬グループ各社が「安全をすべてに優先させる」取り組みを共通の認識とし、国内だけでなく海外現地の法令遵守をはじめとする環境・安全に関わる事故災害の未然防止を図ること、またKAYAKU spiritの実現に向け、「環境・健康・安全と品質に関する宣言」に沿って日本化薬グループの従業員全員でレスポンスブル・ケア活動を進めています。

「日本化薬グループ レスポンスブル・ケア方針」は、2019年度以降継続して取り組むべき方針をベースにして、30秒巡視および定点観察による不安全行動の顕在化に重点を置いた安全衛生活動、機械安全のリスクアセスメントに重点を置いた環境安全衛生診断の見直し、また新たに策定した2030年度までの新中期環境目標達成に向けた脱炭素化を念頭においた目標を中心に作成し、グループ全体で確認したものです。日本化薬グループでは、この方針により今後もレスポンスブル・ケア活動を進めていきます。

日本化薬グループ レスポンシブル・ケア方針

◆ 《目標》

- 重大事故・災害：ゼロ
- 重大環境事故・災害：ゼロ
- 重大交通事故：ゼロ

◆ 1. レスポンシブル・ケア重点課題

- 30秒巡視の強化と定点観察の推進
- 省エネによる温室効果ガスScope1および2の生産高排出原単位年率1%の改善

◆ 2. 「事故災害ゼロ」へ向けた取組みの推進

- リスクアセスメントに重点を置いた診断方法の推進
- 各事業場の特性に合った定点観察の実施
- 熱中症対策の点検と適正化

◆ 3. 職場の労働安全衛生環境の改善

- RC進捗表の最適化と活動状況の見える化
- 国の化学物質管理方針転換（化学物質のリスクアセスメントによる自主管理）への適合
- ストレスチェック組織分析による高ストレス職場の把握とフォロー推進
- 健診結果のデータベース化による管理体制の確立（本年度中での運用開始）
- 健康経営優良法人の再取得
- 災害時情報伝達体制の訓練と強化

◆ 4. 環境目標達成に向けた活動推進

- TCFDへの賛同と要求に整合した開示
- SBT認証取得のための準備
- クラウド型環境情報データ集計システムの適正運用と排出管理体制の確立
- CO₂削減シミュレーションに基づく具体的な削減目標化
- 削減を見据えたScope3算定方法の見直し
- Scope1+2+3の第三者検証
- プラスチック資源循環促進法への対応
- プラスチック廃棄量削減目標化

体制

日本化薬グループでは、社長執行役員を議長とするサステナブル経営会議の専門委員会として「環境・安全・品質経営推進委員会」を設置し、環境安全衛生の確保・品質保証の維持向上に努めており、組織的な活動として国内事業場および海外工場の中央環境安全衛生診断・中央品質診断などを行っています。

環境・安全・品質経営推進委員会は、各事業本部の生産本部長または品質保証部門の長、および本社の間接部門により構成される委員会です。次の事項について審議を行い、サステナブル経営会議への報告および答申を行います。

1. 気候変動に係る課題解決のための方針案および施策案。
2. レスポンシブル・ケアおよび品質保証に関する方針案および目標案。
3. 気候変動、レスポンシブル・ケアおよび品質保証に係る方針に基づく活動の実施状況および活動における問題点とその対応状況。

